

## 「2025年度香港中文大学サマープログラム派遣参加報告書」

京都大学経済学部2年 清水 隼大

## ①学習成果

香港への短期留学の最大の目的は中国語及び英語のスピーキング力、日常生活での運用力向上であった。今回の派遣に参加する以前は、これら二言語ともに読解や書き取りに関しては中級以上の能力があるものの、聞き取りや会話能力に関しては日常会話レベルにも到底及んでいなかった。現地での中国語中級の授業は、教師と生徒との中国語を用いたインタラクティブなやり取りが中心で、聞き取りやスピーキング力だけでなく、細かい発音のニュアンスや様々な場面に対応する語彙など、中国語の運用能力が幅広く飛躍的に向上した。また、常に中文大学の学生や欧米出身の参加者と英語を用いて自ら積極的に交流したことで、友人とのコミュニケーションなど授業外の日常的な場面で英語を用いるということに対してのハードルが格段に低くなったことも実感している。

## ②海外での経験

授業外の時間を最大限に活用し、ほとんど毎日のように現地の学生の友人の助けを得ながら香港の様々な地方に赴いた。各

地を巡る中で、高層ビルが立ち並ぶ世界有数の金融街、密集する超高層アパート、山海の大自然が小規模な面積の土地に共存している様相を目の当たりにし、強い衝撃を受けた。現地の人々と英語や中国語でやり取りする中で時折コミュニケーションが円滑に進まず、とりわけ飲食店での注文やタクシー運転手の方との会話などは苦勞する場面が多かった。香港の人々の英語力は高水準であり、自分の英語運用能力に危機感を覚えることも度々あった。現地では日本のアニメ映画や日本食レストランが人気を博しており、簡単な日本語を話せたり日本に興味を示してくれたりする学生が非常に多く、自国を代表して自国について紹介するという貴重な機会を得られた。今回の派遣が私にとって初の海外渡航であったが、総じて、今まで絶対であった日本の土地、日本人、食をはじめとする日本文化を相対化し、自国について見つめ直す有意義な経験になった。現地で知り合った数多くの学生や留学生の友人とは今後も交流を続けていきたい。

## ③プログラム内容

上述したように語学授業は常に生徒側からの積極的な発信が求められ、能動的に参加し続けたことでスピーキング力、リスニング力、思考力が飛躍的に伸びた。全体でのランチ・ディナーや文化体験では、身をもって香港の食文化や芸術文化を体感することができたと同時に、一緒に参加していた他の留学生と異文化交流を行なう機会にもなった。到着翌日と後半に二度開催されたバスツアーでは、それぞれ尖沙咀とランタオ島などに赴き、香港の地理の全く異なる側面を体験することができた。今回のプログラムの中で最も印象に残っているのは、中文大学の歴史学科の学生と行なった共同セミナーである。中文大学での学生生活や研究内容、学生間での流行、大学受験の実際など、教科書では学べないような興味深い香港の学生のリアルを個人的にも学ぶことができた。

## ④進路への影響

私は元来、アジア発のスタートアップや金融、都市開発の分野に関心があり、香港が世界有数の金融都市として発達しているということも香港への留学に興味を持った大きな要因のひとつであった。実際に香港の各都市や郊外を散策する中で、発展を遂げた壮麗な都市風景が目を引く反面、都心からほど近い区域で老朽化した高層アパートがひしめく様相に、土地の狭さと人口増に起因する深刻な住宅問題を見て取ることができ、都市開発や都市計画・設計を通じた課題解決への興味が更に強まった。また、異なる言語を用いて異文化の人々と交流することで新たな気づきを得る喜びや、日本を世界の人々に知ってもらう面白さを見出せたことは、将来的にはグローバルに活動す

<事務局使用欄> 受付番号：

-

る企業や、国際機関・国際組織へと自らの活躍の場を広げていきたいというモチベーションを高めることに繋がった。